

総合研究協議会

持続可能な建築・まちづくりのための 日本建築学会 SDGs アクション

[資料あり]

9月14日(木) 10:00~13:00

百周年時計台記念館百周年記念ホール+オンライン

司会 平田京子(日本女子大学)

副司会 川久保俊(法政大学)

記録 大塚彩美(東京大学)

1. 主旨説明 糸長浩司(エコロジー・アーキスケープ)

2. 主題解説

① 分野横断的連携による研究推進(テーマ a)

清家 剛(東京大学)

② 弱者のための建築(テーマ b)

秋元孝之(芝浦工業大学)

③ 建築循環圏域(テーマ c)

窪田亜矢(東北大学)

④ 緩和策に貢献する建築 LCCO2(テーマ d)

磯部孝行(武蔵野大学)

⑤ 生態系に依拠する建築地域(テーマ e)

上村真仁(筑紫女学園大学)

⑥ 住生活の貧困の解決に向けて(テーマ f)

寺田 宏(東畑建築事務所)

⑦ 建築 SDGs 教育をどう目指すか(テーマ g)

平田京子(前掲)

⑧ 京都府建築士会の SDGs 実践

高田光雄(京都美術工芸大学)

⑨ 日本建築家協会(JIA)での SDGs への取り組み

所千夏(アトリエ CK)

3. 討議 コーディネーター: 川久保俊(前掲)・平田京子(前掲)

4.まとめ 伊香賀俊治（慶應義塾大学）

建築学会は2021年に「日本建築学会SDGs宣言」を発信し、会員の大会学術講演会、建築デザイン発表会の発表梗概においてSDGsゴールへの研究・実践チェックを継続的に実施している。さらに建築SDGs宣言推進特別調査委員会を核として、学会内の多様な調査研究委員会の参加を得て、SDGs宣言ではゴール11（持続可能なまちづくり）、ゴール12（つくる責任、つかう責任）、そのほかの15ゴールを連携させた7つの行動テーマでの目標を設定した。2022年度は7つのテーマのワーキンググループを設置し、ゴール11+12および各WGや合同WGでの公開委員会を通じて、研究・教育・実装の3分野での具体的な「日本建築学会SDGsアクション」の方向が見えてきた。そこで、この内容を本会会員に対して広く問う場として本総合研究協議会を実施する。多岐にわたるアクションを計画しているが、各テーマで今日重要と考える内容を解説し、残り7年におけるSDGsアクションを推進していく場にしていきたい。また建築関連分野の団体においてもそれぞれSDGsアクションを進められており、建築士会と建築家協会からの実践活動を報告していただく。これらの動向を把握・連携し、建築分野のSDGsに果たすべき役割を明確にし、建築学会としての貢献の方向性を明確にしていきたい。